

第3学年1組 算数科学習指導案

令和7年6月26日(木) 第2時限 3年1組教室

1 単元 一万をこえる数 (10時間完了 本時 6/10)

(1) 目標

- ①一億までの数の表し方や仕組みを理解し、読んだり書いたりすることができる。 (知識・技能)
- ②位の仕組みや数の相対的な大きさに着目し、加減計算の仕方や10倍、100倍、1000倍した数や、10でわった数の求め方を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ③仲間と考えを聴き合うことを通して、一億までの数とその仕組みに進んで関わったり、加減乗除の計算の仕方への考え方を広げたり、深めたりすることができる。 (仲間と関わる力)

(2) 目標に近づくための指導構想

子供の実態

- ・考えをもつ・チームの友達と考えを聴き合ったり、困っている友達に自分の考えを伝えたりして意欲的に問題に取り組もうとする姿が見られる。一方で、自分が困ったときには、手が止まってしまう児童もいる。
- ・考えを聴く聴き合いの時間には、それぞれの考えを聴くのみにとどまってしまう、友達の考えを生かすことができないことが多い。

○児童の活動 ●教師の支援

学習内容	手だて	時間
1 一万より大きな数を読み書きしよう。 ○生活場面から、一万をこえる大きな数について調べることが出来る。 ○一万をこえる大きな数について、読み方、書き方、仕組みについて知る。	●一万をこえる大きな数を身近に捉えることができるよう、生活場面での例をいくつか提示する。 ●位の仕組みに着目することができるよう、位取り板を用意する。	2
2 一億ってどんな数だろう。 ○一億という数について知る。 ○一万を単位として見ることで、位の決まりについて考える。	●一、十、百、千という位の繰り返しに気付くことができるようにするために、色分けをした位取り板を用意する。	1
3 大きな数の大小をくらべよう ○不等号を使って数の大小比較をする。 ○数直線上に数を表したり、数直線上の数を読んだりして、数の系列を捉える。	●一万までの数と同様に考えることができるという見通しをもてるよう、2年生の学習を振り返る場を設ける。	2
4 大きな数の計算のひみつを見つけよう。 ○千や一万を単位とした相対的な見方をもとに、加減計算の仕方を考える。	●1000のまとまりを意識できるよう、位取り板や図、実物の操作など個に合った方法で取り組めるようにする。 ●相対的な見方ができるようにするために、何のまとまりで考えたかを問う。	1 本時 (6/10)
5 10倍、100倍、1000倍したときのひみつを見つけよう。 ○10をかける計算の仕方を考える。 ○10倍の計算をもとにして、100倍、1000倍の計算の仕方を考える。	●位の変化を一般化するために、10倍したときの答えに着目するよう伝える。 ●自分の考えを広げたり、深めたりすることができるよう、チームの友達と聴き合う時間を設ける。	2
6 10でわったときのきまりを見つけよう。 ○10でわったときの計算の仕方を考える。	●位の変化について、10倍することの逆になることに気付くことができるよう、前時と比較するよう促す。	1
7 これまでの学習をふりかえろう。 ○学習内容の理解を確認する。	●学習内容への理解を深めるために、チームの友達と聴き合えるようにする。	1

目指す子供の姿

- ・考えをもつ・位の仕組みや計算の仕方を深く理解するために、自分に合った方法を選択したり、チームの友達に聴いたりすることで、自分の方法で学習に取り組んだり、解決しようとするすることができる。
- ・考えを聴く・チームの友達と意見を聴き合い、自分の考えと比較することで、大きな数の構造やまとまりをもとにした計算の工夫について、自分の考えに自信をもったり、新しい考えを取り入れたりして問題に取り組むことができる。

2 本時の学習

(1) 目標

- ① 相対的な数の見方をもとに、万の位までの加減計算の仕方を考えることができる。(思考・判断・表現等)
- ② チームの仲間とお互いの計算の仕方を聴き合うことを通して、自分の考えに自信をつけたり、より簡潔な考えを取り入れたりし、その考えを活かすことができる。(仲間と関わる力)

(2) 展開

学びに向かう準備	学習課題 大きな数の計算の“ひみつ”を見つけよう			
	予想される子供の反応 <ul style="list-style-type: none">・1000円札を使って考えれば、答えが求められそうだよ。・14+8をすれば、簡単に答えが求められるよ。			
○児童の活動 ●教師の支援				
学び方を選択する・学びに向かう	【活動1】14000+8000の計算の仕方(ひみつ)を考える。 <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 33%; text-align: center;">自分の言葉でまとめる<ul style="list-style-type: none">○ノートに考えをまとめる。●見通しをもてるよう、14000や8000は1000のいくつ分かを確認する。●困っている児童には、実物やヒントカードを使ってもよいと伝える。</td><td style="width: 33%; text-align: center;">具体物の操作で考える<ul style="list-style-type: none">○スクールタクトで1000円札を実際に操作することで、計算の仕方を考える。●10000円は1000円札何枚分かを確認する。</td><td style="width: 33%; text-align: center;">ヒントカードを使う<ul style="list-style-type: none">○合わせて1000がいくつ分という視点から、計算の仕方を考える。●それぞれ自分に合ったものを選ぶように、複数種類のヒントカードを用意する。</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">●3つの方法を複数選択したり、進度に合わせて選び直したりできるようにする。●困っている児童には、まずは1000円札を操作して考えてみるように伝える。	自分の言葉でまとめる <ul style="list-style-type: none">○ノートに考えをまとめる。●見通しをもてるよう、14000や8000は1000のいくつ分かを確認する。●困っている児童には、実物やヒントカードを使ってもよいと伝える。	具体物の操作で考える <ul style="list-style-type: none">○スクールタクトで1000円札を実際に操作することで、計算の仕方を考える。●10000円は1000円札何枚分かを確認する。	ヒントカードを使う <ul style="list-style-type: none">○合わせて1000がいくつ分という視点から、計算の仕方を考える。●それぞれ自分に合ったものを選ぶように、複数種類のヒントカードを用意する。
	自分の言葉でまとめる <ul style="list-style-type: none">○ノートに考えをまとめる。●見通しをもてるよう、14000や8000は1000のいくつ分かを確認する。●困っている児童には、実物やヒントカードを使ってもよいと伝える。	具体物の操作で考える <ul style="list-style-type: none">○スクールタクトで1000円札を実際に操作することで、計算の仕方を考える。●10000円は1000円札何枚分かを確認する。	ヒントカードを使う <ul style="list-style-type: none">○合わせて1000がいくつ分という視点から、計算の仕方を考える。●それぞれ自分に合ったものを選ぶように、複数種類のヒントカードを用意する。	
聴き合う学び合い	【活動2】チームでひみつを聴き合い、適用題で確かめる。 <ul style="list-style-type: none">○それぞれの計算の仕方をチームで聴き合い、自分の考えを確かなものにしたり、取り入れてみたいと思った違う考え方を見つけたりする。○引き算を含む適用題で、聴き合った考え方を活用して計算に取り組む。●答えだけでなく、計算の仕方や考え方も聴き合うように伝える。●「0をとって14+8をする」など形式的に考えている児童には、1000のまとまりという相対的な見方ができるよう、「なぜ0をとってもいいの？」と問う。			
	自分を振り返る	【活動3】大切だと思った考え方を振り返る。 <ul style="list-style-type: none">・○○さんの考えを聴いて、1000のまとまりで考えてみたら、答えを出しやすくなった。・チームの友達に聴いたら14+8で計算できる理由がよく分かった。●大切だと思った考え方を、数字や式など算数で使う言葉を使って書くように伝える。		

(3) 評価

- ① 万の位までの数が1000や10000の何個分かを考えることで、大きな数の計算をすることができたか。(活動1のノートの内容や、活動2の計算の仕方を説明する様子から)
- ② チームの友達と考えを聴き合い、自分の考えと比べる中で、1000のまとまりをもとに、より分かりやすいと思った考えを使って問題に取り組むことができたか。(活動2の適用題に取り組む様子や、振り返りの内容から)